

令和元年度「結婚等に関する県民意識調査」結果の概要

参考資料3

1 調査の概要

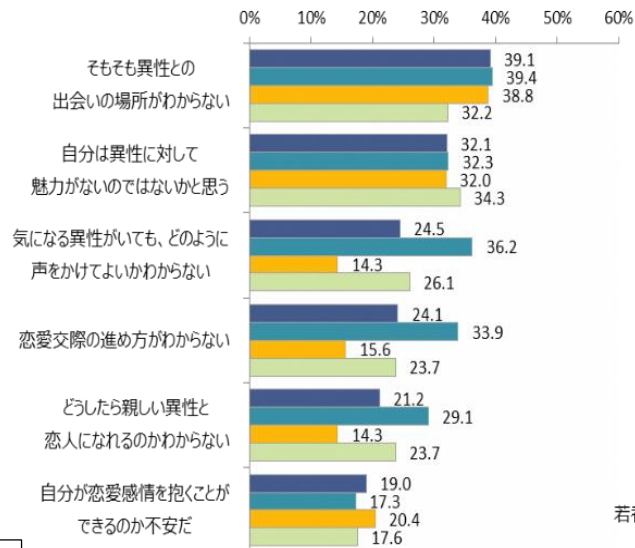
- (1) 調査対象 県内在住の20代から30代の男女2,000人
- (2) 調査期間 令和元年6月21日～7月5日
- (3) 調査方法 郵送返送方式、Webによる調査
- (4) 回収状況 標本数 2,000人
回収数 669人
回収率 33.5%

2 県民希望出生率 1.9

「希望出生率」
 = {既婚者割合×予定子ども数＋
 未婚者割合×未婚結婚希望割合×理想子ども数}
 ×離別等効果

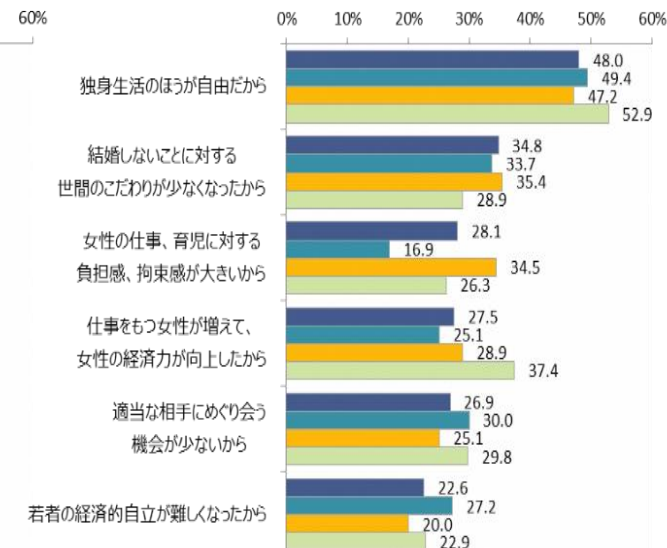
(5) 異性と交際する上での不安(未婚の人:複数回答)

全体では、「そもそも異性との出会いの場所がわからない」が39.1%と最も高い。
 男性の「どのように声をかけてよいかわからない」「交際の進め方が分からない」などの回答が特徴的。



(6) 未婚化、晩婚化の理由について(複数回答:3つまで)

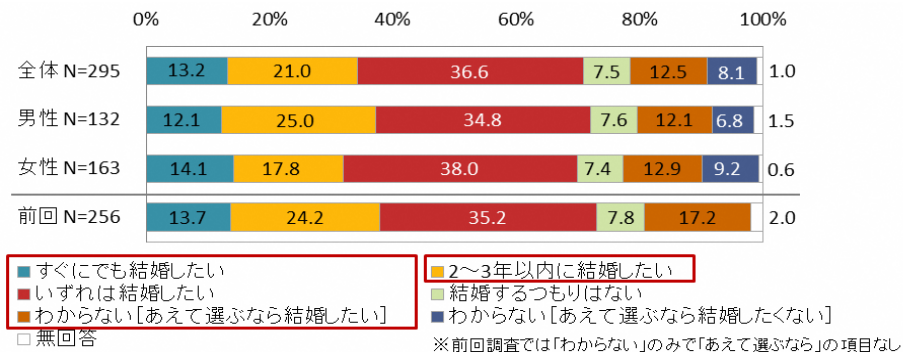
全体では、「独身生活のほうが自由だから」が48.0%と最も高い。
 女性の「女性の仕事、育児に対する負担感、拘束感が大きいから」の回答が特徴的。



3 調査結果の要点

(1) 結婚していない人のご自身の結婚の時期について

現在結婚していない方のうち、83.3%は、今後「結婚したい」と回答している。

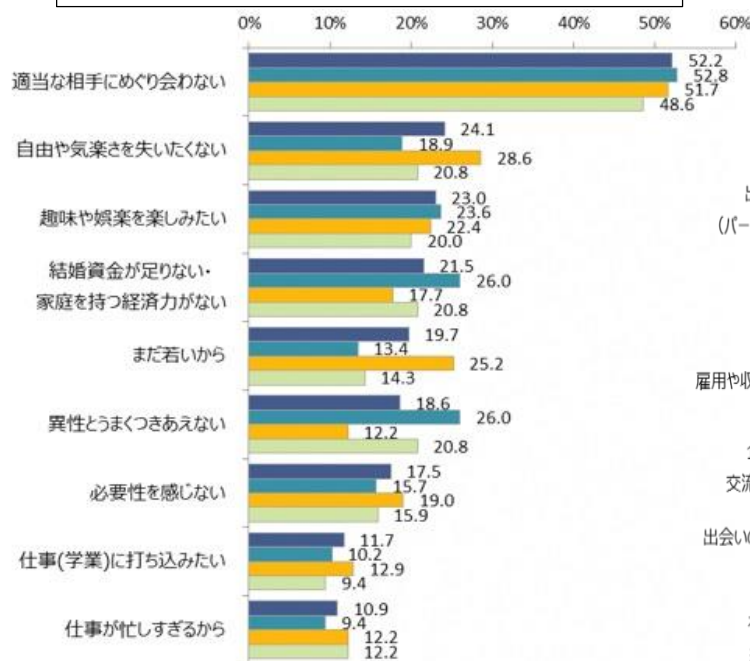


(2) 理想の結婚年齢と子どもを持つ理想的な年齢

	理想の結婚年齢	子ども(第1子)を持ちたい理想的な年齢
男性の平均	29.1歳	30.0歳
女性の平均	27.1歳	27.8歳

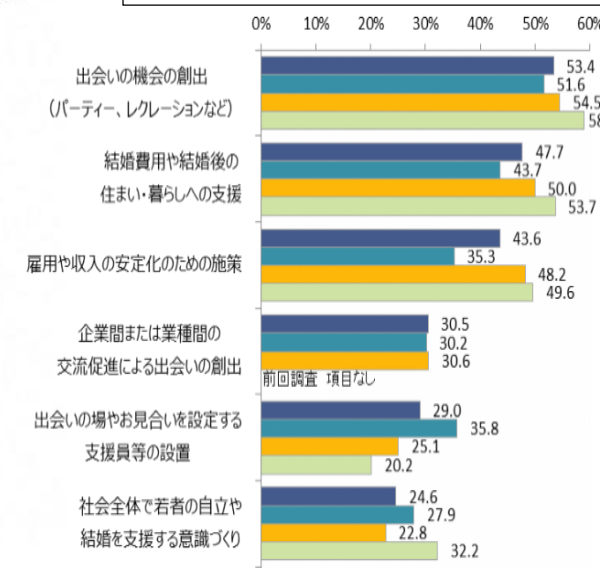
(4) 現在結婚していない理由(未婚の人:複数回答3つまで)

全体では「適当な相手にめぐり合わない」が52.2%と最も高い。
 女性は「自由や気楽さを失いたくない」、男性は「結婚資金・経済力」との回答が特徴的。



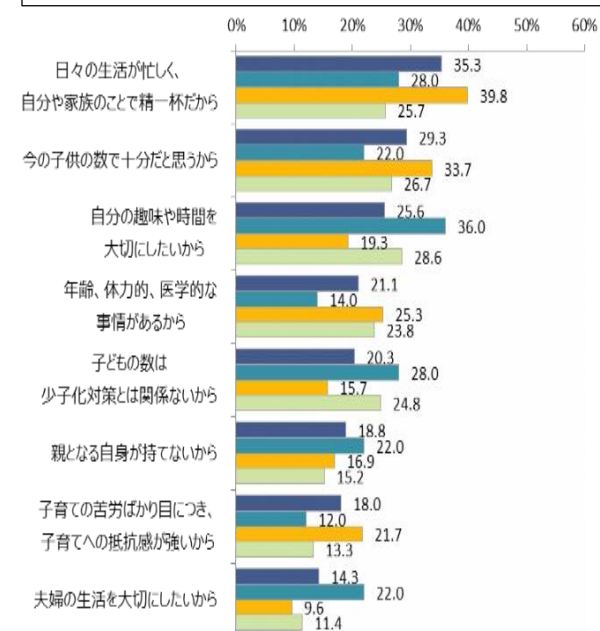
(7) 特に必要だと考える取り組み(複数回答)

全体では「出会いの機会の創出」が53.4%と最も高い。男性の「出会いの場やお見合いを設定する支援員等」の設置との回答が特徴的。



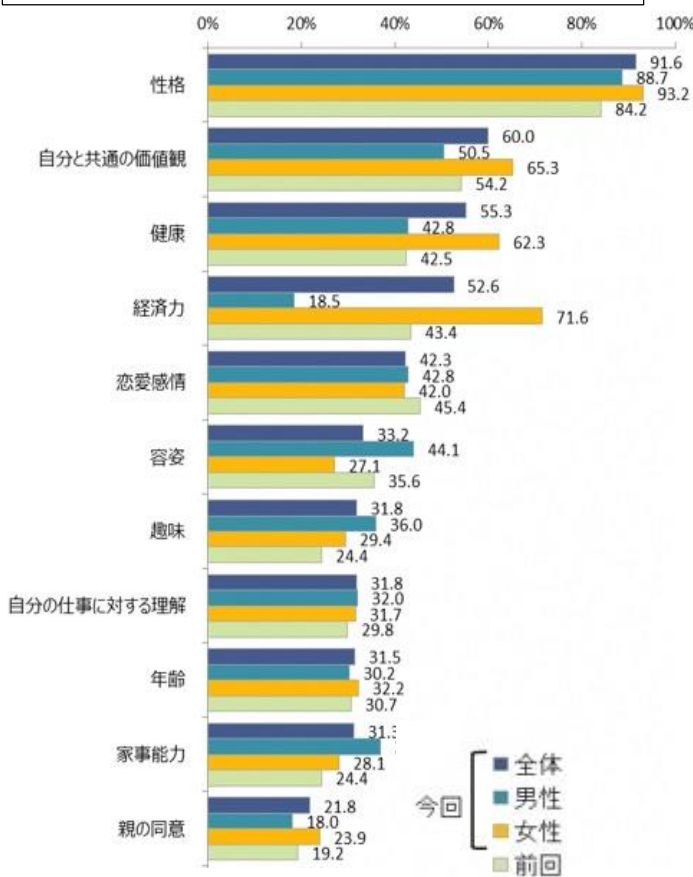
(8) 少子化対策を拡充しても、そのような気持ちにならないと思う理由(複数回答)

回答の男女差が目立つ。女性の「日々の生活が忙しく、自分や家族のことで精一杯だから」が39.8%と最も高く、「年齢、体力的、医学的な事情」「子育ての苦労ばかりが目につき抵抗感が強いから」が特徴的。男性は、「自分の趣味や時間を大切にしたいから」が36.0%と高く、「日々の生活が忙しい」と続く。



(3) 結婚相手に求める条件(すでに結婚している人、将来結婚したい人:複数回答)

全体では「性格」が91.6%と最も高い。女性は「健康」「経済力」、男性は「容姿」「趣味」との回答が特徴的。



(9) 「子育てに優しい社会」に必要なことに関する自由回答

自由回答の内容	女性の回答数	男性の回答数
環境整備(遊び場等)	54	21
環境整備(男性トイレのベビーチェア等)	27	5
環境整備(ハードその他)	24	3
経済的支援	25	22
働き方改革・職場機運醸成	21	12
母親への精神面の支援	17	5
保育の充実(病児・一時預かり等)	11	0
子育て等に温かい社会づくり	13	1
学童保育	9	0
その他	8	6
計	209	75

出会いの場の創出や、日々の忙しさを軽減する働き方改革、結婚や子育てに関するネガティブイメージの払拭のほか、男性にはコミュニケーション力アップ、女性には家事・育児等の負担感軽減が求められる。